

# 「日本一小さな村」の役場文書整理

## —富山県中新川郡舟橋村—

小林 啓治

京都府立大学だから京都府内という常識を打ち破り、今年度は富山まで遠征した。「それにしても、なんで富山県？ 富山には富山大学があるでしょ！」。その通りだが、理由は全く個人的な事情による。舟橋村との関わりは一昨年（2015年）であった。兵事史料を調査している段階で、ひょんなことから『北陸新聞』に舟橋村の兵事史料の記事があることを発見。すぐに史料を所蔵している舟橋村に電話し、事情を話して史料を見せてもらうことになった。当時、『舟橋村史』の編纂が最終段階に入っており、編集を担当されていた須山盛彰さんを通して、兵事史料の概要を知ることになった。これが舟橋村との関係の発端である。

翌2016年の秋にもお邪魔し、今度は集中的に必要なものを見せていただいた。敗戦にともなってほとんどの市町村で焼却されてしまった兵事史料が、それなりの分量で残っているのは全国でもわずかな事例しかない。舟橋村の場合、新潟県上越市、京都府京丹後市などに保存されている兵事史料と比べると、残存率では劣るものの、個々に見ていくと珍しいものも多い。地域ごとに兵事システムを見ていくには貴重な史料群である。ただ、問題は簿冊がスチール本棚に立てて置かれているため、とても痛みやすい状態になっていることである。史料調査を終えて気になったことを役場職員の方に告げ、もし次年度に申請している科研費が採択されれば、もう一度調査に来たいこと、合わせて「文書箱に整理して収納してよければ、お手伝いします」と、申し出ておいた。

前置きが長くなりすぎたが、ここで舟橋村を簡単に紹介しておこう。役場が制作したパンフレットによると、面積が3.47平方キロメートル、人口は約3,000人、日本で最も面積が小さな村である。富山平野のほぼ中央に位置し、周囲には田園と宅地が広がる。明治期に近世村が合併して舟橋村ができてから、周囲の自治体と合併することなく今に至っている。現在は全国トップクラスの人口増加率だそうである。なぜか、そのあたりは、ハフィントン・ポスト日本版に舟橋村のことが紹介されているので、興味のある方はそちらをご参照いただきたい<sup>1</sup>。

さて、2017年4月、科研費申請が採択されたので、さっそく役場に電話して、調査と文書整理の許可を得た。一応、戦前の役場文書をすべて箱詰めして保管すること、あわせて既存の目録を整理し、分類ごとに並べ替えることを目標とした。文書整理には人員が必要なので、院生・学生のみなさんに手伝っていただくことにした。参加者は、次のとおり。学術研究員：小野寺真人、博士前期課程2回生：堀越翔、佐藤圭祐、2回生：芝野有純、安江範泰（敬称略）。

6月24日、朝早く京都駅をサンダーバードで出発。金沢駅で北陸新幹線に乗り継いで富山駅下車。そこから富山地方鉄道に乗り換えて約15分ほどで舟橋村に到着する。作業は午後から開始した。まずは、目録のデータをいただき戦前の役場文書だけを抽出。兵事、統計、村会などの分類を施す作業を進める。その一方で、整理対象となる文書をすべて講堂に並べ、分類に沿って並び替える準備をする【写真1】。1日目はここまで、すでに時間となった。舟橋村には宿泊施設がないので、富山駅近くのホテルにもどった。

翌日は、分類ごとの目録と文書を照合しつつ、箱詰めしていく。これが順調にいけば、予定より早く終わるかもしれない、と予想された。ところがどっこい。目録と文書がどうしても合わない。よくあることだが、何度やっても一致に至らない。どんどん時間が過ぎる。次の日の13時には、講堂が予約されているので使えなくなるということで、どうするか判断を迫られた。みんなで侃々諤々の議論をしながら、結局、兵事はそれだけで並べかえるが、その他は分類しないという方針に変更。それでもギリギリとなることが予想された。この日は午後6時まで、みんなヘトヘトになりながら、出来るところまで年代順に文書を並べ替えた。

最終日。できるだけ早くしないと間に合わないので、朝8時過ぎには富山駅を出発。何が何でも13時までには終わらせることを確認して、作業を開始。箱詰めをどんどん進めるが、まさしく時間と競争の状態、ギリギリ間に合った。その整理された美しい状態が【写真2】である。整理前の状態を写した写真がないのでわかりにくいかもしれないが、みんなで胸をなで下ろすと同時に、しばし達成感に満たされた。縦に置かれることによって湾曲した薄い簿冊は横にして箱詰めされることで、保存状態はかなり改善されたと自負している。

この先、これらの史料がどのように利用されていくのだろうか。研究者以外には中々手が出せない史料群ではあるが、「この村が近代以降、どのような歴史をたどってきたかを考える時、かけがえのない文化遺産ですから、よろしくお願いします」といった旨を役場の担当者に伝えて、帰路についた。舟橋村の住民の方たちが、足下の地域の歴史を掘り下げ、これからの地域のあり方を想像・創造していく上で、少しでも貢献できていれば幸いである。

#### 【註】

- 1 「人口が増え続ける「日本一小さな村・舟橋村」には、「日本一子どもに優しい図書館」があった」[http://www.huffingtonpost.jp/2016/01/04/funahashi-vill\\_n\\_8909360.html](http://www.huffingtonpost.jp/2016/01/04/funahashi-vill_n_8909360.html)



写真1 文書整理の準備



写真2 整理後の状況